



## 経営指標の変化から見えるコロナ禍含む3年間の 信用金庫業界の構造変化

### 視点

金融調査情報 No. 30-13 (2018年10月3日付) にて、2013年4月の日本銀行による「量的・質的金融緩和」の導入決定以来、アベノミクス政策下の5年間にみられた経営指標の変化を通して信用金庫業界の構造変化を読み解いた。それから3年以上が経過し、2020年度には、世界全体がコロナ禍に見舞われ、日本の経済社会も大きな影響を受けるに至った。それは、企業の運転資金需要の急増を受けた2020年4月末以降の預貸金末残の前年同月比増加率の急上昇にも表れている。そこで、本稿では前回のレポートと同様の方法で、この3年間の信用金庫業界のさまざまな経営指標の変化について検討し、信用金庫業界の構造変化について見ていくこととする。

### 要旨

- 2017年度から2020年度までの3年間で、貸出金、預金、系統預金および資産合計の各残高の業界内シェアは、概ね全信用金庫のうちシェア上位の2割の信用金庫に一段と集中する一方、有価証券の場合は逆に、シェア上位の4分の1で低下し、より全体に分散した。
- 各資産残高の対預金残高比率を小さい順に並べると、この3年間で預貸率は過半、預証率は大半の順位で上昇し、ともに業界内差は拡大した。信用金庫は、有価証券運用への依存度が高まる一方、余資運用のもう一つの核である系統預金の比率は、大半の順位で低下し、業界内差も縮小した。
- 各種利益の総資産利益率 (ROA) は、業務粗利益、業務純益、経常利益および当期純利益のいずれも、この3年間で概ね全順位で低下した。一方、コア業務純益ROAは、ほぼ全順位で上昇したことが目を引いた。ROAについては、総じて業界内差が縮小している。
- 各種利回りについては、この3年間で貸出金利回り、預金利回りおよび資金運用利回りは全順位で低下し、業界内差は縮小した。貸出金利回りから与信費用比率を引いた実質貸出金利回りは全順位で低下したものの、業界内差は横ばいとなった。与信費用比率は全順位で上昇し、業界内差が縮小した。有価証券利回りは過半の順位で上昇し、業界内差は拡大した。
- 信用金庫全体では3年前と比べ、預金平残と業務粗利益が増加し、経費が減少した。この結果、経費関連指標は、3年前に比べて預金経費率が全順位、OHRがほぼ全順位で低下した。ただ、業界内差をみると、預金経費率では縮小する一方、OHRでは拡大した。

### キーワード

残高累計シェア 預貸率 預証率 ROA 利回り 預金経費率 OHR 業界内差

## 目次

はじめに

1. 信用金庫の資産負債残高の分布状況
2. 信用金庫の預貸率等の分布状況
3. 信用金庫の総資産利益率（ROA）の分布状況
4. 信用金庫の貸出金利回り等の分布状況

おわりに

## はじめに

金融調査情報 No. 30-13（2018年10月3日付）にて、2013年4月の日本銀行による「量的・質的金融緩和」の導入決定以来、アベノミクス政策下の5年間にみられた経営指標の変化を通して信用金庫業界の構造変化を読み解いた。それから3年以上が経過し、2020年度には、世界全体がコロナ禍に見舞われ、日本の経済社会も大きな影響を受けるに至った。それは、企業の

運転資金需要の急増を受けた2020年4月末以降の預貸金末残の前年同月比増加率の急上昇にも表れている（**図表1**参照）。そこで、本稿では前回のレポートと同様の方法で、この3年間の信用金庫業界のさまざまな経営指標の変化について検討し、信用金庫業界の構造変化について見ていくこととする。

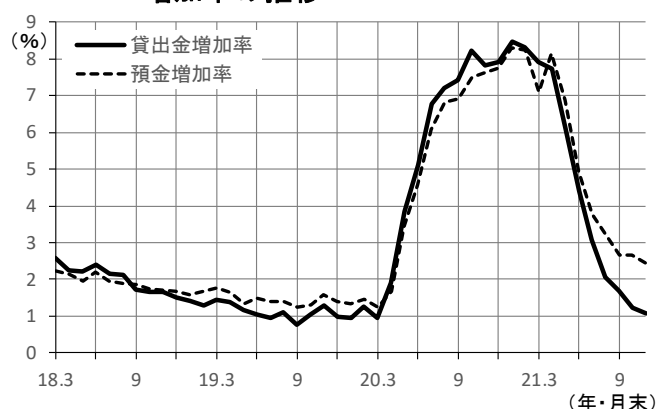
なお、本稿では、信用金庫業界の経営指標の変化について、各種指標を左から小さい順に並べた折れ線グラフおよびその変化幅を分析した。また、**図表2-①~⑧**および**図表3-①~④**は、原則として2021年3月末時点の全254信用金庫を基準に図表を作成している。なお、2018年4月以降2021年3月末までに合併した信用金庫の2018年3月末の残高については、合併対象である個別金庫の計数を単純合計している。

## 1. 信用金庫の資産負債残高の分布状況

### (1) 貸出金累計シェア

まず、**図表2-①**の作成方法と見方について説明する。2018年3月末と2021年3月末における、各信用金庫の貸出金残高が全信用金庫合計に占めるシェアを小さい順に並べ、その各順位までの累計を算出した。全信用金庫の貸出金残高のシェアが均等であれば、全信用金庫のシェアは等しく254分の1となる。したがって、累計シェアを結ぶ線は累計金庫数1（254分の1）から累計金庫数254（1.0）を結ぶ直線となる。これを均

（図表1）信用金庫の預金・貸出金末残前年同月比増加率の推移



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

等シェア直線と呼ぶ。実際の累計シェア曲線が均等シェア直線を下回る部分の面積が大きいほど、信用金庫の貸出金残高のシェアは、小さい信用金庫から大きな信用金庫まで散らばりが大きいことになる。

2021年3月末の貸出金累計シェア曲線は、上位で2018年3月末の累計シェア曲線よりも概ね下方シフトしている。その変化幅をみると、141番目まではゼロ前後であり、その後214番目までマイナス幅が拡大し、そこから242番目までマイナス幅は縮小してプラスに転じ、その後はゼロに収束している（図表2-②参照）。業界全体の貸出金残高が急増する過程で、全信用金庫のうちシェアが中位から上の3割の順位の信用金庫のシェアが縮小し、シェア上位の2割の信用金庫にシェアが一層集中した。

### (2) 預金累計シェア

2021年3月末の信用金庫の預金累計シェア曲線は、貸出金と同様に下方シフトしている（図表2-②、③参照）。以下、累計シェア曲線の作成方法と見方は、貸出金残高の場合と同じである。その変化幅を見ると、概ね、全信用金庫のうちシェアが中位までの信用金庫のシェアが縮小し、続く4割の信用金庫のシェアは横ばいとなり、シェアが上位1割強の信用金庫に、よりシェアが集中したことになる。

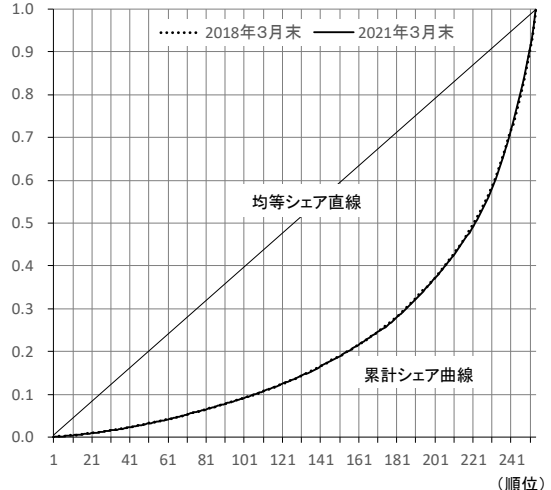
ただし、累計シェア曲線の低下幅は、貸出金の累計シェア曲線で最大の低下幅を下回っており、シェア集中化の進行度は貸出金ほど速くない。

### (3) 有価証券累計シェア

2021年3月末の信用金庫の有価証券累計シェア曲線は、2018年3月末から概ね上方シフトしている（図表2-②、④参照）。その変

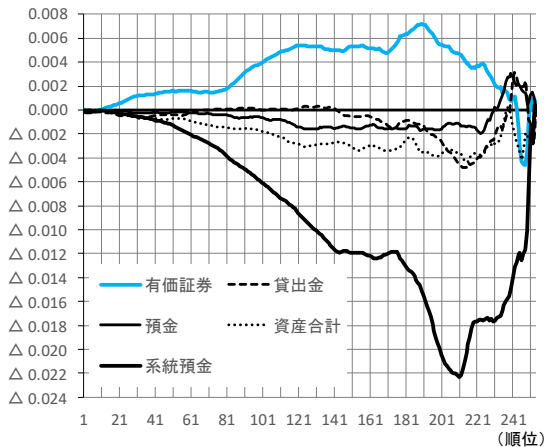
(図表2) 信用金庫の資産負債残高の分布状況

#### ① 貸出金累計シェア



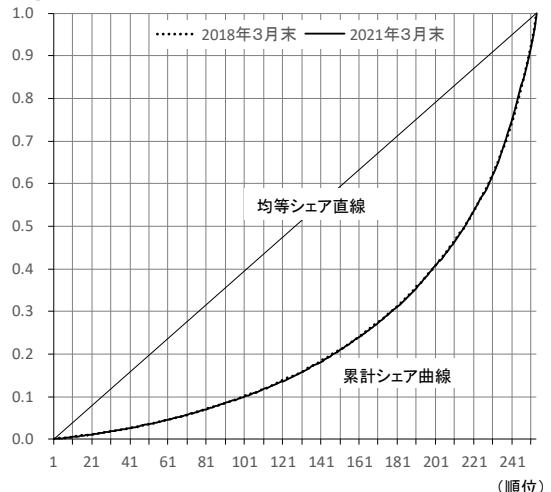
(備考) 以下④まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

#### ② 累計シェア変化幅



(備考) 累計シェア変化幅=2021年3月末-2018年3月末

#### ③ 預金累計シェア



化幅を見ると、190 番目までは、45～74 番目と 116～173 番目までの横ばいのゾーンをはさんで上昇幅が拡大した。191～248 番目までは上昇幅が縮小してマイナスに転じ、そこから 254 番目のゼロに収束している。つまり、概ね 190 番目までのシェアの小さい信用金庫がシェアを拡大し、ここから 248 番目までの信用金庫がシェアを縮小、シェア上位 6 金庫へのシェア集中化は見られたものの、概ね業界内でのシェアがより平準化した。有価証券残高の累計シェア曲線は、前回（金融調査情報 No. 30-13）と同様、貸出金、預金や後述する資産合計とは違う動きとなった。

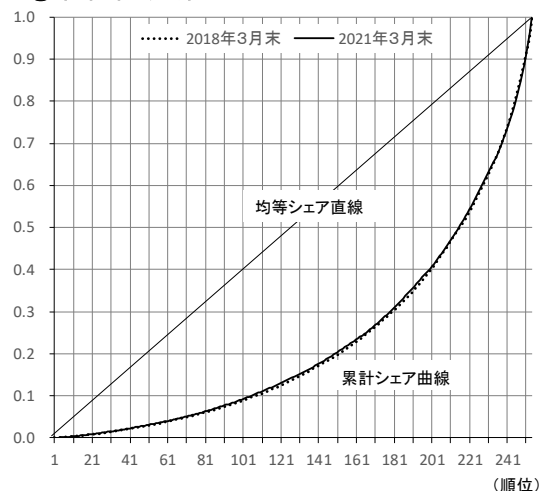
#### (4) 系統預金累計シェア

2021 年 3 月末の信用金庫の系統預金累計シェア曲線は、2018 年 3 月末から下方シフトしている（図表 2-②、⑤参照）。その変化幅を見ると、まずシェアの小さい順に概ね 211 番目までは、144～176 番目の横ばいゾーンをはさんでマイナス幅が拡大した。212 番目からは、222～233 番目の横ばいゾーンをはさんでマイナス幅が縮小して 254 番目のゼロまで収束している。概ねシェアの小さい 8 割強の信用金庫のシェアが縮小し、シェア上位の 1 割強の信用金庫に一層シェアが集中している。211 番目の底の深さから、シェア集中化のペースの速さがうかがえる。

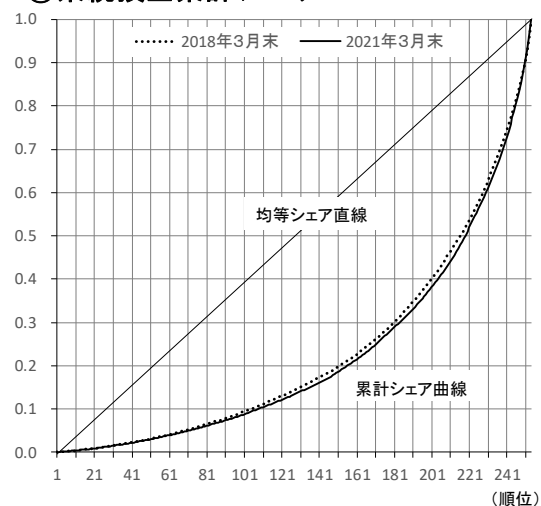
#### (5) 資産合計累計シェア

2021 年 3 月末の信用金庫の資産合計累計シェア曲線は、貸出金や預金と同様、2018 年 3 月末からほぼ全順位で下方シフトした（図表 2-②、⑥参照）。その変化幅を見ると、シェア上位の 35 金庫にシェアがより集中した。

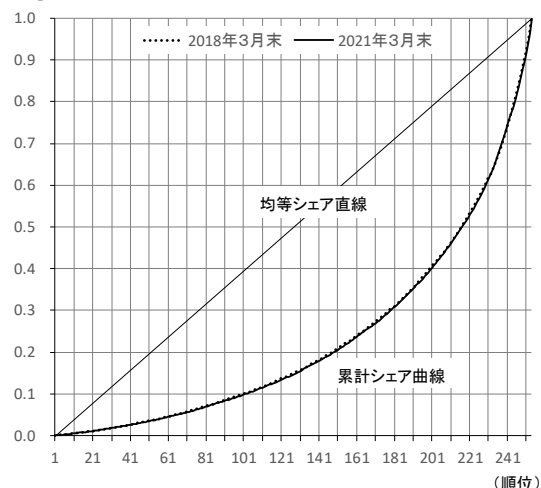
(図表 2) (続き)  
④有価証券累計シェア



⑤系統預金累計シェア



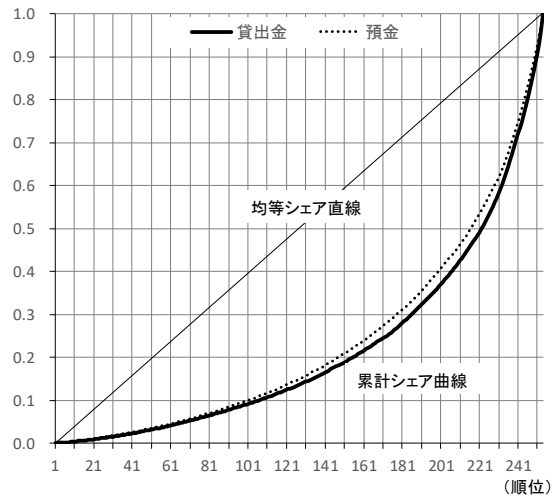
⑥資産合計累計シェア



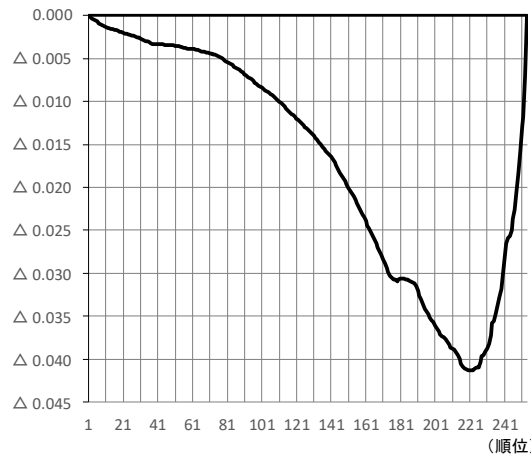
## (6) 貸出金と預金の比較

では、貸出金と預金では、同じ2021年3月末時点でどちらの残高シェアの集中度が高いのだろうか。両者の累計シェア曲線を重ねると、貸出金の方が下方にあり、預金よりも集中度が高い（図表2-⑦、⑧参照）。貸出金累計シェアから預金累計シェアを引いたスプレッドは、概ねシェアの低い順に220金庫まで拡大し、残る34金庫では縮小している。220金庫は、概ね貸出金シェアが預金シェアを下回り、残る上位34金庫については、貸出金シェアが同順位の預金シェアを概ね上回っている。

(図表2) (続き)  
⑦貸出金と預金の累計シェア曲線  
(2021年3月末)



⑧貸出金と預金の累計シェア曲線のスプレッド (2021年3月末)



(備考) スプレッド=貸出金累計シェア-預金累計シェア

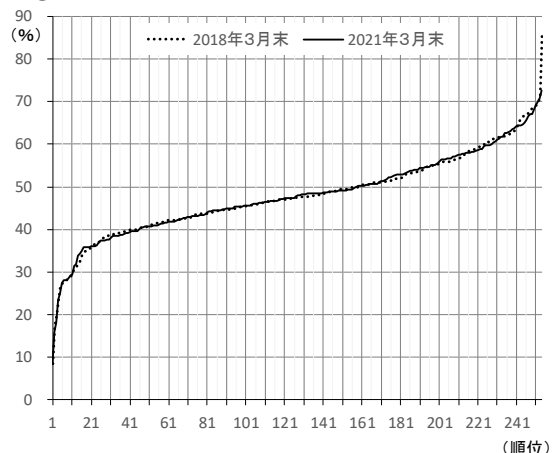
## 2. 信用金庫の預貸率等の分布状況

### (1) 預貸率

図表3-①は、2018年3月末と2021年3月末の信用金庫の預貸率を、それぞれ低い順に並べたものである。以下、図表4-④、⑨を除く全図表は、比率を各時点で低い順に並べたものまたはその変化幅である。預貸率は、2018年3月末から2021年3月末に142金庫で上昇している（図表3-②参照）。預貸率の上位と下位の5%に当たる13金庫の突出したデータを除いて241番目と14番目のデータの差を求めると、2021年3月末で30.49%ポイントと、3年前から1.80%ポイント縮小した。差が

(図表3) 信用金庫の対預金残高比率の分布状況

### ①預貸率



(備考) 以下④まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

0.12%ポイント拡大した 2013 年 3 月末からの 5 年間とは逆に、今回は、預貸率は平準化している。

## (2) 預証率

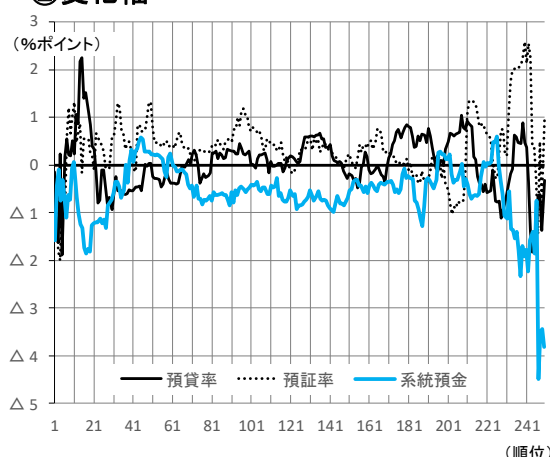
預証率は、2018 年 3 月末から 2021 年 3 月末までの 3 年間で、低い順に 179~210 番目のゾーンの 25 金庫など 51 の信用金庫で低下し、それ以外では上昇している（**図表 3-②、③参照**）。預証率の 241 番目と 14 番目のデータの差を求めると、2021 年 3 月末で 40.10%ポイントと、3 年間で 1.27%ポイント拡大した。13 年 3 月末からの 5 年間では 2.22%ポイント拡大しており、1 年当たりのペースはやや鈍化したものの、引き続き拡大している。

## (3) 系統預金比率

系統預金比率（=信金中金預け金残高÷預金残高×100）については、2018 年 3 月末から 2021 年 3 月末の 3 年間で、低い順に 37~60 番目のゾーンの 21 金庫など 39 金庫で上昇しており、残る 215 金庫では低下している（**図表 3-②、④参照**）。系統預金比率の 241 番目のデータと 14 番目のデータの差を求めると、2021 年 3 月末で 29.60%ポイントと、3 年前から 0.53%ポイント縮小した。

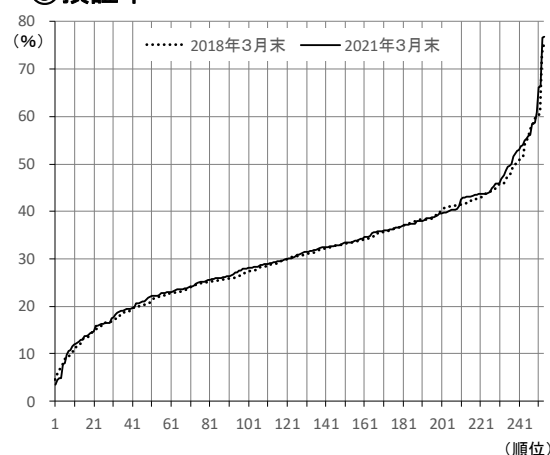
(図表 3) (続き)

### ②変化幅

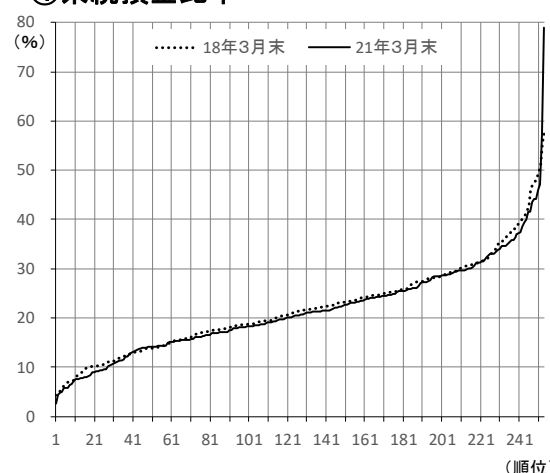


(備考) 1. 変化幅=2021年3月末-2018年3月末  
2. 図表を見やすくするため、3比率とも極端なデータを含む 251~254 番目を含まない。

### ③預証率



### ④系統預金比率



(備考) 系統預金比率=信金中金預け金残高÷預金残高×100

### 3. 信用金庫の総資産利益率（ROA）の分布状況

本章の**図表4-①～⑨**および次章の**図表5-①～⑩**では、2017年度および2020年度の損益データおよび平残データを使用している。しかし、信用金庫合併年度のこれらデータは利用しにくいいため、両年度中に合併した信用金庫はサンプルから除いている。したがって、対象金庫数は、2021年3月末時点の254ではなく、そこから北海道、宮崎都城（現宮崎第一）（ともに2017年度合併）およびはくさん（2020年度合併）の3つの信用金庫を除く251である。

#### (1) 業務粗利益ROA

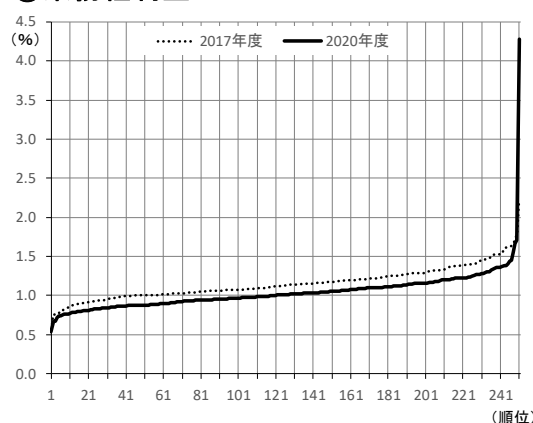
業務粗利益ROA（＝業務粗利益÷資産合計平残×100）は、2017年度から2020年度に251番目を除く全順位で低下した（**図表4-①参照**）。その低下幅は、概ねROAが高いほど大きい傾向にあり、全体として差が縮小している（**図表4-②参照**）。全251信用金庫の5%に当たる業務粗利益ROAの最低と最高13金庫のデータを例外的データと考え、238番目のデータと14番目のデータの差を求めると2020年度は0.55%ポイントとなり、3年前から0.07%ポイント縮小した。

#### (2) 業務純益ROA

業務純益（＝業務粗利益－一般貸倒引当金繰入額－経費）を用いた業務純益ROA（＝業務純益÷資産合計平残×100）は、業務粗利益ROAと同様に、2017年度から2020年度にかけて189金庫で低下した（**図表4-③参照**）。その低下幅は、概ねROAが高い順位ほど大きい傾向にあり、業務粗利益と同様に業界内差が縮小している（**図表4-②参照**）。業務純益ROAの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で0.40%ポイントとなり、3年前から0.03%ポイント縮小した。

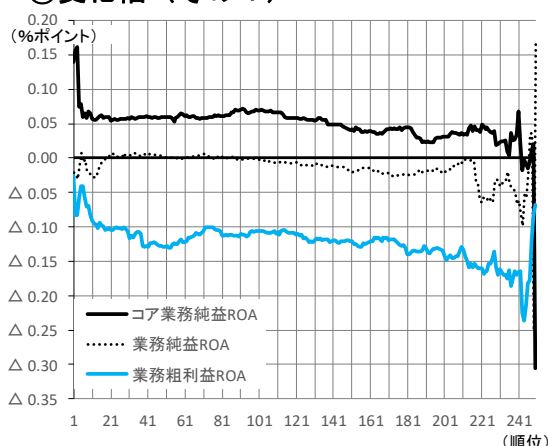
**(図表4) ROAの分布状況**

#### ①業務粗利益ROA



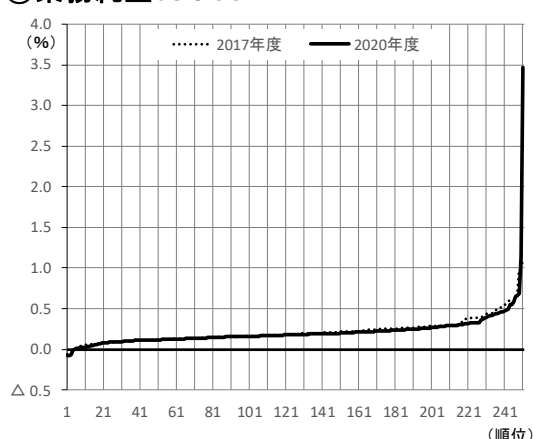
(備考) 以下⑨まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

#### ②変化幅（その1）



(備考) 1. ④、⑧、⑨とも変化幅＝2020年度－2017年度  
2. 外れ値を含む251番目のデータを除く。

#### ③業務純益ROA





業務粗利益には債券関係損益<sup>1</sup>が含まれており、前述のとおり、業務純益は業務粗利益から一般貸倒引当金繰入額と経費を引いたものである。信用金庫別に、債券・与信費用関係損益率（＝（債券関係損益－一般貸倒引当金繰入額）÷資産合計平残×100）の変化幅を業務純益ROAの変化幅と比較すると、債券・与信費用関係損益率の変化幅がプラスであるほど、業務純益ROAの変化幅もプラスになる傾向がみられる（図表4-④参照）。信用金庫の業務純益は、債券運用や与信費用の動向から影響を受けている。

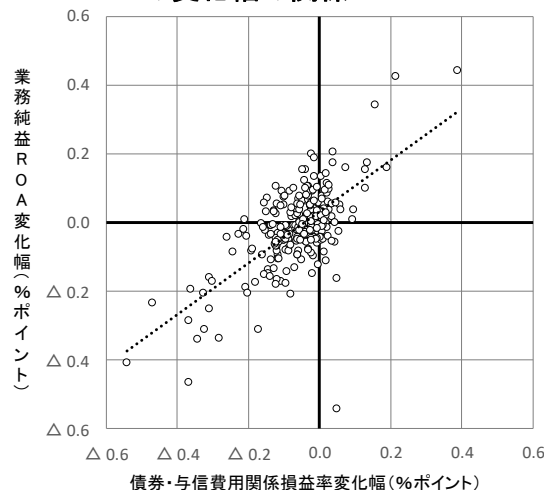
### (3) コア業務純益ROA

コア業務純益＝業務純益－債券関係損益＋一般貸倒引当金繰入額＝業務純益－債券・与信費用関係損益であり、コア業務純益は業務純益よりも本業に限った利益であるとされている。コア業務純益ROA（＝コア業務純益÷資産合計平残×100）は、ROAが高い243～251番目のゾーンの6金庫を除き、2017年度から2020年度に上昇しており、上昇幅はROAの下位から中位にかけての信用金庫が大きい（図表4-②、⑤参照）。238番目のデータと14番目のデータの差でみると、2020年度で0.36%ポイントであり、3年前からの縮小幅は0.04%ポイントと、業務純益ROAより業界内差の縮小幅が0.01%ポイント大きい。

### (4) 経常利益ROA、当期純利益ROA

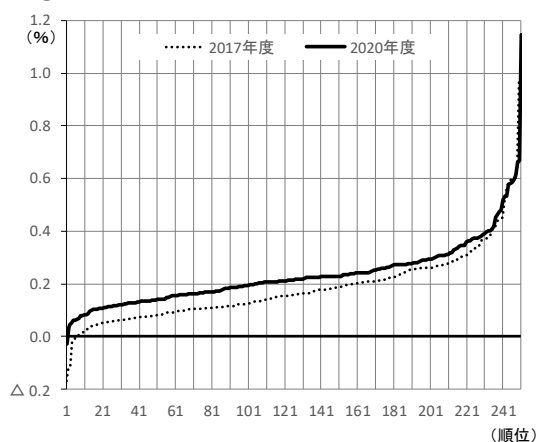
経常利益ROA（＝経常利益÷資産合計平残×100）および当期純利益ROA（＝当期純利益÷資産合計平残×100）は、ともに低い順に5番目までの信用金庫が2017年度にマイナスであったが、2020年度にはともに9番目までマイナスとなった。うち7番目までの低下幅が大きかった（図表4-⑥、⑦、⑧参照）。経常利益ROA、当期純利益ROAとも248、249、251番目の3金庫を除き、全順位で低下

(図表4) 続き  
④債券・与信費用関係損益率と業務純益ROAの変化幅の関係

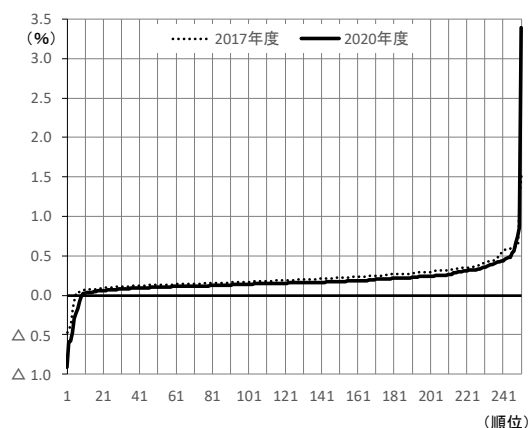


(備考) ⑨とも外れ値となった1信用金庫を除く。

### ⑤コア業務純益ROA



### ⑥経常利益ROA

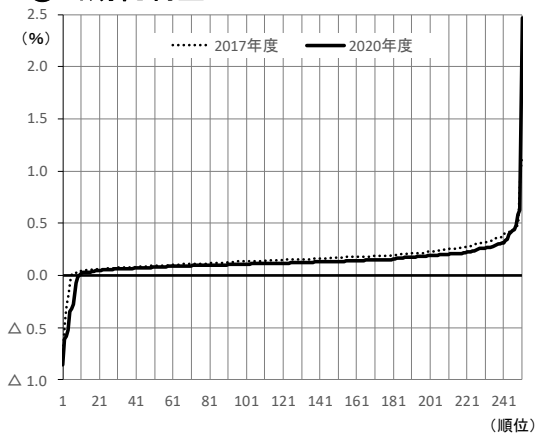


<sup>1</sup> 債券5勘定戻（＝国債等債券売却益＋国債等債券償還益－国債等債券売却損－国債等債券償還損－国債等債券償却）のこと。

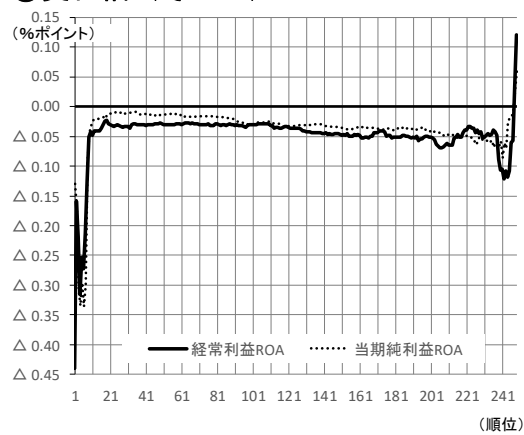


(図表4) 続き

⑦ 当期純利益ROA



⑧ 変化幅 (その2)



(備考) 外れ値を含む 250、251 番目のデータを除く。

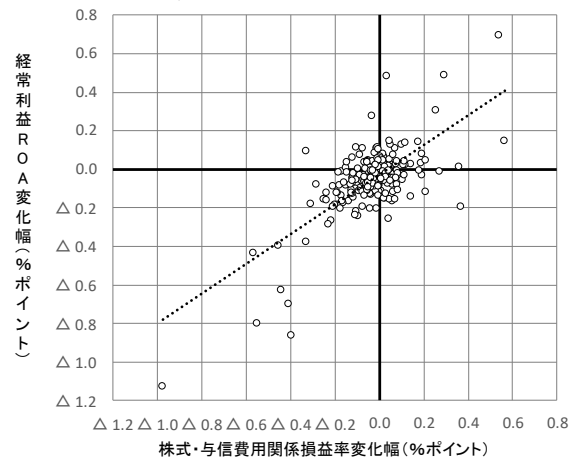
した。経常利益ROA、当期純利益ROAとも業界内差は縮小した。両ROAの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、経常利益ROAは2020年度で0.38%ポイント(2017年度比0.01%ポイント縮小)、当期純利益ROAは2020年度で0.26%ポイント(同0.04%ポイント縮小)となった。

この3年間で業務粗利益ROA、業務純益ROAはほぼ低下する一方、コア業務純益ROAは上昇している。業務純益に株式関係損益<sup>2</sup>や個別貸出金の不良債権処理費用等を含む臨時損益を反映した経常利益や、さらに税金を差し引いた当期純利益のROAも、3年間で低下した。

信用金庫の経常利益ROAの変化幅について、株式・与信費用関係損益率(=(株式関係損益-個別貸倒引当金繰入額-貸出金償却+貸倒引当金戻入益+償却債権取立益)÷資産合計平残×100)の変化幅の関係をみると、株式・与信費用関係損益率のプラス幅が大きいほど経常利益ROAが改善する傾向がみられる(図表4-⑨参照)。

(図表4) (続き)

⑨ 株式・与信費用関係損益率と経常利益ROAの変化幅の関係



<sup>2</sup> 株式3勘定戻(=株式等売却益-株式等売却損-株式等償却)のこと。

## 4. 信用金庫の貸出金利回り等の分布状況

### (1) 貸出金利回り

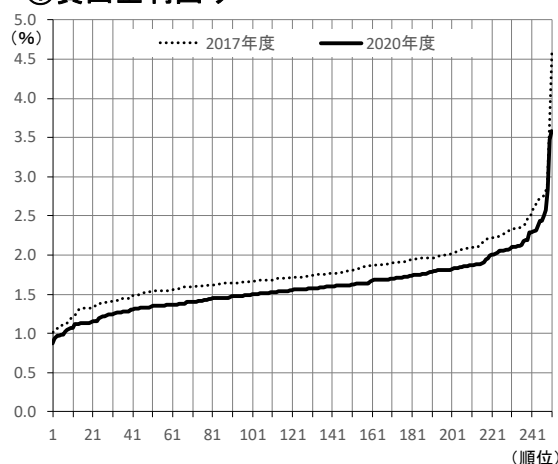
貸出金利回り（＝貸出金利息÷貸出金平残×100）は、2017年度から2020年度に全順位で低下した（図表5－①参照）。低下幅は、概ね0.2%ポイント近辺であり、251番目がマイナス1.05%ポイントと、大きく低下した（図表5－②参照）。貸出金利回りの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で1.06%ポイントとなり、業界内差は3年前から0.03%ポイント縮小した。

貸出金利回りから与信費用比率（＝与信費用<sup>3</sup>÷貸出金平残×100）を差し引いた実質貸出金利回りも、2017年度から2020年度に全順位で低下した（図表5－②、③参照）。低下幅は、極端に大きい1、2番目から始まって、178番目まで利回りが高い順位ほど縮小、その後は再び低下幅が拡大した後縮小し、250、251番目に再び急拡大した。実質貸出金利回りの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で1.24%ポイントと、業界内差は3年前と同じ水準であった。実質貸出金利回りの低下幅と貸出金利回りの低下幅を比較すると、242番目以降の6金庫を除き、実質貸出金利回りの低下幅の方が大きかった。

2017年度から2020年度に実質貸出金利回りを貸出金利回りより一層低下させたのは、全順位での与信費用比率の上昇である（図表5－④参照）。上昇幅は、3～240番目は概ね横ばいであり、241番目以降急上昇しており、全体としては微増となっている。与信費用比率の238番目のデータと14番目のデータの差でみた業界内差は、2020年度で0.53%ポイントと、3年前から0.04%ポイント縮小している。

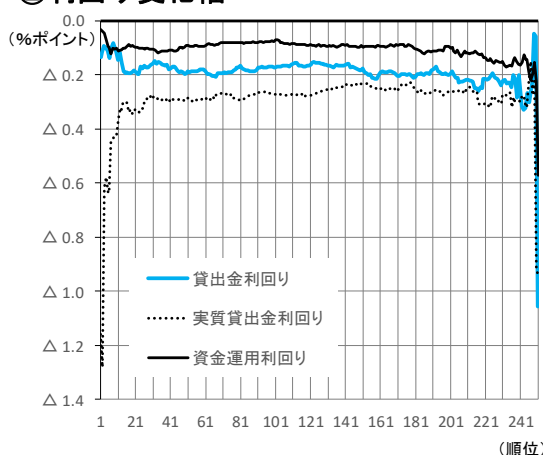
（図表5）信用金庫の各種利回り等の分布状況

#### ① 貸出金利回り



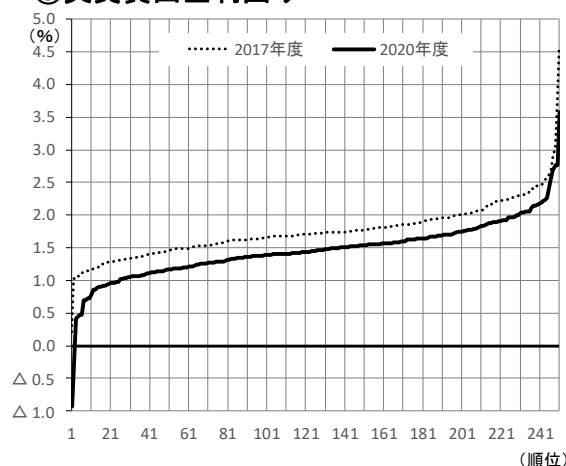
（備考）以下⑩まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

#### ② 利回り変化幅



（備考）1. 図表5－④、⑤、⑥、⑨とも変化幅＝2020年度－2017年度

#### ③ 実質貸出金利回り



<sup>3</sup> 与信費用＝一般貸倒引当金繰入額＋個別貸倒引当金繰入額＋貸出金償却－貸倒引当金戻入益－償却債権取立益

## (2) 預金利回り

預金利回り（＝預金利息÷預金平残×100）は、2017年度から2020年度に全順位で低下した（図表5－⑤参照）。低下幅は、利回りが高い上位ほど大きい傾向にあり、業界内差は縮小している。預金利回りの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で0.05%ポイントと、3年前から0.04%ポイント縮小した。

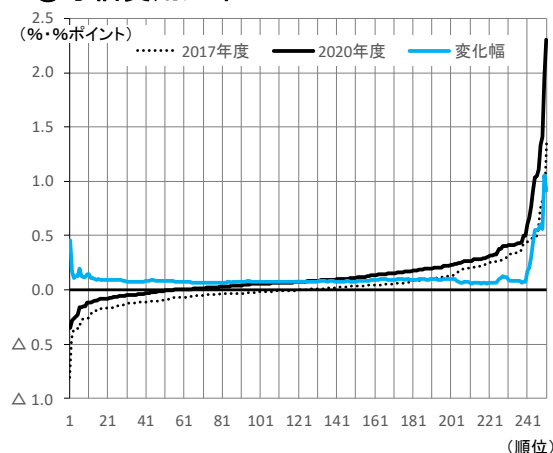
## (3) 有価証券利回り

有価証券利回り（＝有価証券利息・配当金÷有価証券平残（商品有価証券平残を含む。）×100）は、低い順に79番目まで低下し、80番目から245番目は上昇し、246番目以降の6金庫は大きく低下した（図表5－⑥参照）。有価証券利回りの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で0.94%ポイントと、3年前から0.08%ポイント拡大した。

## (4) 資金運用利回り

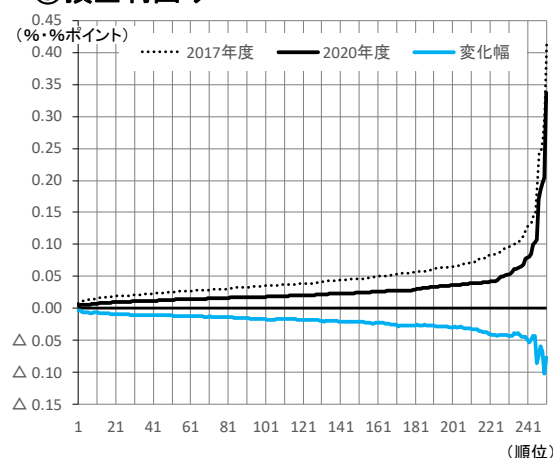
資金運用利回り（＝資金運用収益÷資金運用勘定計平残×100）は、2017年度から2020年度に全順位で低下した（図表5－②、⑦参照）。低下幅は、7番目まで拡大した後101番目まで縮小し、その後は拡大に転じてペースを加速している。業界内差は、全体的には縮小している。資金運用利回りの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で0.63%ポイントと、3年前から0.03%ポイント縮小している。

図表5（続き）  
④与信費用比率



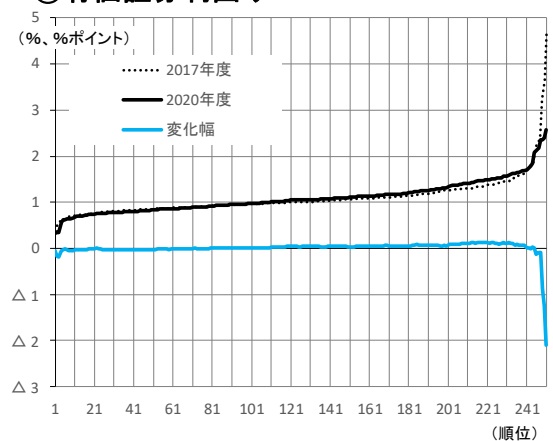
(順位)

⑤預金利回り



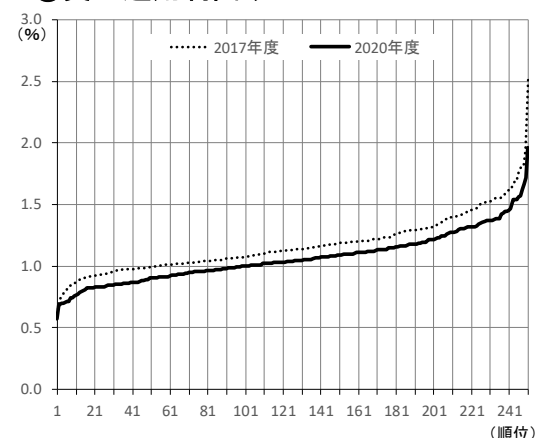
(順位)

⑥有価証券利回り



(順位)

⑦資金運用利回り



(順位)

### (5) 預金経費率・オーバーヘッドレシオ（OHR）

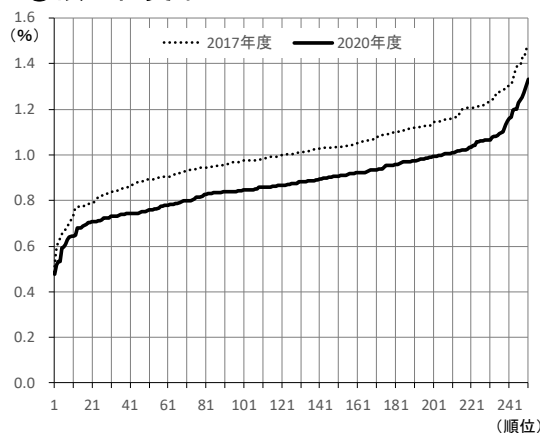
預金経費率（＝経費÷預金平残×100）は、2017年度から2020年度に総じて低下した（**図表5－⑧参照**）。低下幅は、概ね237番目まで拡大した後、下げ止まる形となった（**図表5－⑨参照**）。全体として預金経費率の高い信用金庫ほど低下幅が大きい傾向にあり、業界内差は縮小している。預金経費率の238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で0.42%ポイントと、3年前から0.09%ポイント縮小した。

オーバーヘッドレシオ（OHR）（＝経費÷業務粗利益×100）は、2017年度から2020年度にほぼ総じて低下（改善）した（**図表5－⑨、⑩参照**）。

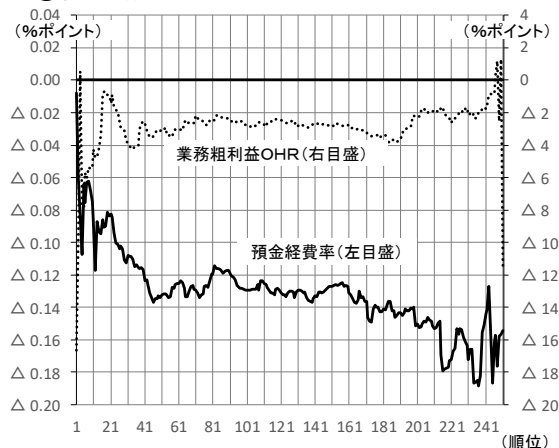
低下（改善）幅をみると、3番目と18番目を頂点とした乱高下を挟んで、概ね低い方から84番目まではOHRが高い信用金庫ほど低下幅が縮小し、85～183番目の99順位ではOHRが高い信用金庫ほど低下幅が拡大した。184～250番目まで低下幅は再び縮小して上昇傾向に転じた後、251番目に低下幅は急拡大している。OHRの238番目のデータと14番目のデータの差を求めると、2020年度で32.73%ポイントと、3年前から2.20%ポイント拡大した。

日本銀行の「地域金融強化のための特別当座預金制度」導入などに促された信用金庫の経費削減努力や、コロナ禍での預金平残急増により預金経費率が全順位で、業務粗利益OHRもほぼ全順位で低下（改善）している。

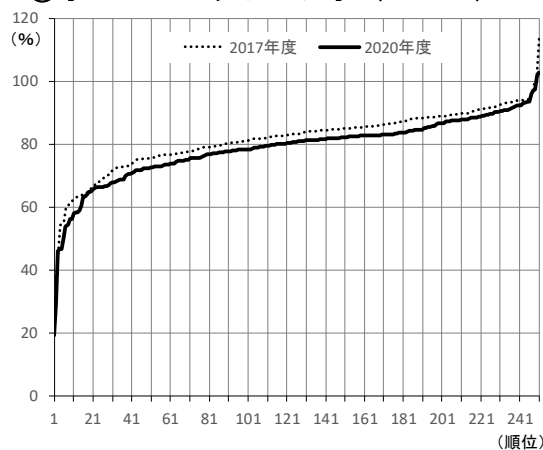
(図表5) 続き  
⑧ 預金経費率



⑨ 変化幅



⑩ オーバーヘッドレシオ（OHR）



## おわりに

以上みてきたように、コア業務純益ROA、預金利回りおよび預金経費率は、業界内差が縮小した。一方、有価証券利回りおよびOHRは、業界内差が拡大した。貸出金残高が増加傾向にあるなかで、業界内でのシェアの集中も起きている。環境が改善する局面で、他社との差が拡大、縮小することは、信用金庫に限らずさまざまな業種で見られる状況であろう。

なお、本稿の分析では、方法の性格上、信用金庫合併の業界内シェアの集中度への影響は取り除かれている。しかし、規模の経済性は広く認識されており、金融当局もここ数年、地域金融機関の事業環境悪化に耐えるための体力強化の手段として規模の経済性に注目し、その向上を目指した合併・再編を地域金融機関に促してきた。相対的に預金規模の小さいグループでは、同様の預金規模でも費用効率性を示す預金経費率やOHRの個別信用金庫間のばらつきが非常に大きい。つまり、個別のケースでは事業環境や業務内容の違いもあろうが、業界内でも高い費用効率を実現している中小の信用金庫がある。一方、合併以前に、さまざまな費用効率化のための検討余地がある信用金庫もあると思われる。そうした個別事情の違いを踏まえたうえで、人口減少問題や金融技術革新への対応など中長期的な視点からも、規模の経済性を享受するために、必要に応じて合併という方法がある。ちなみに、業界内でのシェア分布の面からは、小規模信用金庫同士の合併は平準化をもたらすが、大規模信用金庫同士の合併が多ければ、シェアの集中化が一層進む点も意識しておく必要があるだろう。

以上  
(間下 聡)

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。また当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこのレポートは作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。

## 【バックナンバーのご案内：金融調査情報】（2021年度）

号 数	題 名	発行年月
2021-1	信用金庫の若年層取引の強化策 - 事前課題の集計結果 -	2021年4月
2021-2	信用金庫の本部組織改革への取組み - 事前課題の集計結果 -	2021年4月
2021-3	信用金庫と国内銀行の医療・福祉向け貸出動向とコロナ禍の環境下での医療機関の収益動向等	2021年4月
2021-4	2020年度の全国信用金庫主要勘定状況（速報） - 預金は7.1%増、貸出金は7.9%増とコロナ禍で高い伸び -	2021年4月
2021-5	信用金庫の高齢層取引の強化 - 事前課題の集計結果 -	2021年5月
2021-6	信用金庫の営業店人員の適正化 - 事前課題の集計結果 -	2021年5月
2021-7	信用金庫による補助金申請支援 - 事業への理解をもとにウィズコロナの本業支援を -	2021年5月
2021-8	信用金庫の非対面チャネルの強化 - 事前課題の集計結果 -	2021年6月
2021-9	コロナ禍における信用金庫経営② - 事前課題の集計結果 -	2021年6月
2021-10	大和証券株式会社のベテラン層社員の活躍拡大策	2021年6月
2021-11	やさしく読み解くSDGs（1） - SDGsとは何者なのか -	2021年6月
2021-12	SMBC日興証券株式会社の「プロボノワーク制度」	2021年8月
2021-13	城南信用金庫におけるオンラインを用いた理事長と全職員の座談会について	2021年8月
2021-14	住友生命保険相互会社の「生産性評価制度」	2021年8月
2021-15	住友生命保険相互会社の女性活躍への取組み	2021年8月
2021-16	SMBC日興証券株式会社の女性管理職向け「メンター制度」	2021年9月
2021-17	SMBC日興証券株式会社の「週3日・週4日勤務制度」	2021年9月
2021-18	最近の信用金庫の店舗動向 - 2020年度末までの店舗数と保有不動産の有効活用事例 -	2021年9月
2021-19	やさしく読み解くSDGs（2） - 自社戦略への組み込みと対外発信のヒント -	2021年9月
2021-20	最近の信用金庫と国内銀行の地区別貸出金増加率の動向	2021年10月
2021-21	地域金融機関による不動産の有効活用 - 発注者支援の手法も活用した川崎信用金庫の事例 -	2021年10月
2021-22	大和証券グループのSDGsへの取組み	2021年12月
2021-23	信用金庫の個人ローン残高の動向	2021年12月
2021-24	やさしく読み解くSDGs（3） - ESG投資の潮流と今後の課題 -	2022年1月
2021-25	地域金融機関による補助金申請支援の取組事例 - 外部専門家活用によるノウハウ蓄積から有料化へ -	2022年1月

## 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 活動状況 (2021年12月実績)

### ○レポート等の発行状況

発行日	レポート分類	通巻	タイトル
21.12.3	内外金利・為替見通し	2021-9	今年最後の12月会合でも、日銀の金融政策に特段の変更はない見通し
21.12.3	金融調査情報	2021-22	大和証券グループのSDGsへの取り組み
21.12.8	ニュース&トピックス	2021-56	株式会社クレディセゾンの「1on1ミーティング」実施
21.12.8	金融調査情報	2021-23	信用金庫の個人ローン残高の動向
21.12.9	ニュース&トピックス	2021-58	2021年11月末の信用金庫の預金・貸出金動向(速報) ー統計開始以来初めて、要求払預金が定期性預金を上回るー
21.12.9	内外経済・金融動向	2021-6	国内観光業はコロナ禍の苦境から抜け出せるか ー渡航制限下でも国内観光支出は9割回復可能。訪日外国人の支出は円安でかさ上げもー
21.12.20	ニュース&トピックス	2021-62	空知信用金庫の無人販売所「そらちしんきんマルシェ」について
21.12.28	産業企業情報	2021-9	環境激変に挑む中小企業の「危機対応」③(商業編) ー“不変の原理”を拠り所とする卸売業・小売業の長寿企業の危機対応事例ー

### ○講演等の実施状況

実施日	講演タイトル	主催	講演者等
21.12.3	地域金融機関の課題 地域密着金融の取り組み	静岡大学、 静岡県信用金庫協会	鉢嶺 実
21.12.10	日本経済の現状と展望について	西武信用金庫	角田 匠
21.12.15	内外経済情勢と今後の展望	奈良中央信用金庫	角田 匠
21.12.18	信用金庫における預貸利鞘の決定要因	生活経済学会九州部会	品田雄志

#### <信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号  
 TEL: 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX: 03-3278-7048  
 e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp  
 URL <https://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)  
<https://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)